

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：交通対策費

事業名 新広域バス路線運行維持奨励金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

都市建築部 公共交通課 地域交通係 電話番号：058-272-1111(内 2735)

E-mail：c11134@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 92,000千円 (前年度予算額： 0千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|------------|------------|------------|----------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財産 収入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要求額 | 92,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 92,000 |
| 決定額 | 92,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 92,000 |

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・ 令和2年春の緊急事態宣言時の減収に加え、令和3年1月の再度の緊急事態宣言に伴う外出自粛等により移動需要が減少し、さらなる減収が見込まれ、乗合バス事業者は大変厳しい経営状況に置かれている。
- ・ コロナ禍の収束が見通せない中で、バス路線の減便・廃止は、県民の移動サービス縮小とともに車内密度の増につながるおそれがあることから、路線、便数の維持が求められる。

(2) 事業内容

乗合バス事業者が、密を回避し、路線・便数を維持する運行に対して、奨励金により支援する。

(3) 県負担・補助率の考え方

経常費用と経常収益の差額に次の率を乗じた額

地域間幹線系統・準地域間幹線系統 3 / 20

連絡系統 1 / 6

※ただし、上限額あり

3 事業費の積算内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|------|--------|---------|
| 補助金 | 92,000 | |
| 合計 | 92,000 | |

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 「清流の国ぎふ」創生総合戦略

③地域公共交通体系など生活サービスの再編・効率化

(地域公共交通の維持と再編)

- ・ 地方鉄道の維持確保のため、安全運行に必要な設備投資等を支援するとともに、バス交通の維持確保のため、広域幹線バス路線や市町村自主運行バスの運行を支援する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

| |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 緊急事態宣言に伴う外出自粛等により移動需要が減少し、厳しい経営状況に置かれている乗合バス事業者が、密を回避し、路線・便数を維持して運行することに対して、奨励金により支援し、地域住民の生活の移動手段を確保する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 | 指標の推移 | | 現在値 <small>（前々年度末時点）</small> | 目 標 | 達成率 |
|-----|-------|-------|------|---------------------------------|------|-----|
| | (H) | (H) | (H) | (H) | (H) | % |
| | (H) | (H) | (H) | (H) | (H) | % |

○指標を設定することができない場合の理由

路線バスは、運転手のやりくりなどにより運行本数等を適宜見直すことがあるため、一概に指標を設定することは適当でない。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

| | |
|--|-----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い | |
| (評価) ○ | 広域路線の維持確保につながるため、事業の必要性が高い。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない | |
| (評価) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある | |
| (評価) | |

(今後の課題)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 コロナ禍の収束が見通せない中で、乗合バス事業者の経営状況は大変厳しく、バス路線の減便・廃止の恐れがあり、県民の移動サービス縮小とともに車内密度の増につながるおそれがある。 |
|---|

(次年度の方向性)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか コロナによる影響を注視しつつ、必要な対策を検討する。 |
|---|

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

| | |
|------------------------|-------|
| 組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 | |
| 組み合わせる理由や期待する効果 など | 【○○課】 |